

# 日蓮伝説解説（鴨川編）

日蓮(1222～82)は自身の生誕地を安房国長狭郡東条郷片海(鴨川市小湊)と記しているが、その正確な場所は分かっていない。12歳で清澄寺に上り17歳まで道善房に師事した。鎌倉や比叡山延暦寺等で修業し、法華経が釈迦の真実の教えであると確信すると、32歳で立教開宗をした。翌年、領家の尼に代わり東条郷(鴨川市)の地頭東条景信と係争し勝訴したため、念仏信者の景信の反感をかい鎌倉へ渡ることになった。鎌倉・伊豆での法難後43歳の時、父の墓参りと病気の母を見舞うため帰郷。東条郷の小松原で景信に襲われ、天津領主工藤吉隆と弟子の鏡忍房が殺害されてしまう。日蓮も左腕を折られ眉間に疵を負った(小松原法難)。このような出来事の中で、この地域には日蓮に関する多くの伝説も生まれてきた。その後、鎌倉へ戻るが、50歳の時逮捕され佐渡流罪が決まる。途中、江の島近くの龍口で斬首されそうにもなった。53歳の時、流罪を許され鎌倉へ戻るが、身延に入山した。61歳の時、体調を崩していた日蓮は常陸国へ湯治に向かうが、武蔵国の池上宗仲邸に留り、10月8日に日昭・日朗・日興・日向・日頂・日持を本弟子(六老僧)に定め、13日に入滅した。葬儀後、25日に遺骨が身延へ到着した。

## ①蓮華潭 鴨川市小湊

日蓮の生家は地震で海中に沈んだが、大弁天・小弁天付近とされる。貞応元(1222)年2月16日の日蓮誕生時には、家の庭先に清水が湧き、渚に蓮華の花が咲き誇り、海中に鯛が群れ集まったといわれている。

## ②鯛の浦(妙の浦) 鴨川市小湊

日蓮の誕生時に鯛が群れをなした蓮華潭で、後年、日蓮が七字の題目「南無妙法蓮華経」を海へ投げると、海上に字が現れ、鯛が群集した。この一帯の鯛は日蓮の化身とされ、今も漁が禁じられている。

## ③小湊山誕生寺 鴨川市小湊 183

建治2(1276)年、日蓮生家の地に日蓮の誕生と母梅菊の蘇生延寿を記念して建てられた。明応7(1498)年の津波により流失。その後、現在地に再建された。境内で湧いた井戸水を、誕生水と名付けている。

## ④妙日山妙蓮寺 鴨川市小湊 129-1

文永4(1268)年に日蓮の母梅菊(妙蓮)が亡くなると、日蓮は父重忠(妙日)の墓所に母の墓塔を建て、妙日山妙蓮寺と命名した。両親ともいわれる。境内に日蓮御手植えの廣布梅や蘇生櫻の碑がある。

## ⑤岩高山日蓮寺 鴨川市内浦 3094

文永元(1264)年、小松原法難をうけた日蓮は、天津領主工藤吉隆の家臣北浦忠吾・忠内兄弟にこの地へ案内された。疵を洗った湧水、身を潜めた岩屋がある。岩屋の砂を疵につけると痛みと出血が止まったといわれる。また、吉祥翁に導かれ、岩屋に薬草を褥として敷き、砂を傷口にあてて治療したという話もある。老婆お市が寒さ凌ぎと疵の養生にと、被っていた綿帽子を日蓮に差し上げたといわれる。

## ⑥日蓮の父、貫名次郎重忠公流着の地 鴨川市内浦

昭和46(1971)年建立の石柱に、建仁3(1203)年に北条時政により当地へ流されたが、代官滝口兵庫朝家が世話をしたと記されている。

## ⑦東光山西蓮寺 鴨川市内浦 1726

西蓮寺に伝わる伝説では、日蓮は寺の薬師の前に捨てられていた赤子で、薬王丸(薬師丸)と名付けられ、12歳まで養育されて清澄寺に上がったとされている。境内には日蓮の乳母雪女の墓がある。

## ⑧光瑞山高生寺 鴨川市内浦 544

建長5(1253)年、法華経こそが正法だと説くため清澄寺へ行く日蓮は、自分が殉じた時の両親の嘆きを思い、生家の方向を見返って涙した。その場所に中老僧日保が一宇を建立した。その後、地震・津波により現在地へ移転している。江戸時代の寛延3(1750)年に鑄造された日蓮聖人像は、日蓮の銅像の立像としては日本最古である。

## ⑨朝日堂 鴨川市内浦

高生寺の元の場所。現在は山裾にある。中腹には狭い平坦地があり、文化12(1815)年に建立された法師の墓が祀られている。『日本の伝説安房の巻』にあるように誕生寺を真向かいに見渡すことができる。

## ⑩天津神明神社 鴨川市天津 2950

日蓮は、遺文の中で「昔は日本第二の御厨、今は日本第一なり」、「辺国なれども、日本国の中心のごとし」と記す。開宗後、妙法弘通を天津神明神社に祈念し川向の御本尊(曼荼羅)を納めたといわれる。

## ⑪明星山日澄寺 鴨川市天津 1850

日蓮が母を見舞うときに随行した日澄が、清国寺(真言宗)の住職を論破し寺号を日澄にした。小松原法難で討ち死にした天津領主工藤吉隆の菩提を弔うため、寺は吉隆の館跡である現在地へ移転した。

## ⑫涕淚岩 鴨川市清澄

清澄寺は女人禁制のため母梅菊は善日曆(日蓮の幼名)に女人堂で面会したが、修業の妨げになるので来ないように諭された。梅菊が堂の近くの石に座り、善日曆の無事を祈って涙したといわれる岩。

## ⑬千光山清澄寺 鴨川市清澄 332-1

善日曆は天福元(1233)年に清澄寺に入山し天台宗を学び、嘉禎3(1237)年に出家し名を蓮長と改めた。境内にある凡血の笹の黒い点は、靈感を得たとき吐いた凡血といわれる。延暦寺などでの修業を終え、建長5(1253)年、故郷に帰った日蓮は、4月28日早朝、旭が森で太平洋から昇る朝陽に向かって題目を唱え、法華宗を立てることを宣言して日蓮と名を改めた。銅像は大正12(1923)年に建立された。

## ⑭光玉山多聞寺 鴨川市浜荻 1145

文永元(1264)年、日蓮が鎌倉から安房への帰途、毘沙門天(多聞天)の変化した童子が、一夜の宿を提供するため住職に引き合わせて姿を消した。日蓮は住職や郷土北浦忠吾・忠内兄弟らを教化改宗させた。寺の宗派は天台宗から日蓮宗に、寺号は多聞寺に改められた。

## ⑮高祖大士御疵洗井水之靈地 鴨川市浜荻

日蓮は北浦兄弟邸内の姥が池で、小松原法難での疵を洗い手当を受けた。池は明応7(1498)年の津波で埋もれたが改修され、疵洗い井戸として伝えられる。井戸の前に日蓮が腰掛けたとされる石がある。

## ⑯袈裟山掛松寺 鴨川市広場 1971

小松原法難のとき北浦兄弟が駆けつけ、ここで日蓮の袈裟を脱がし、路傍の松に掛けて介抱した。その後、この木は切られて日蓮の像を彫刻し当寺に安置された。袈裟掛けの松は植え継がれて4代目になっている。また、日蓮が法難直後に川のほとりにあった松に袈裟を掛け、長い一夜を過ごしたので、川は夜長川と呼ばれているなどの話がある。

## ⑰上人塚 鴨川市広場

小松原法難での工藤吉隆殉教の地。日蓮は妙隆院日玉の法号を贈り、吉隆をこの地に葬った。後に、人々がこの地に塚を築いて上人塚と呼ぶようになり、鏡忍寺住職日長は明和5(1768)年に碑を建立している。平成25年に小松原法難での死傷軍馬供養の馬頭観音碑が建立された。

## ⑱小松原山鏡忍寺 鴨川市広場 1413

小松原法難で亡くなった鏡忍房と吉隆の霊を弔って、弘安4(1281)年に妙隆山鏡忍寺が建立された。後に小松原山に改めた。御法難堂は、日蓮が鏡忍房を葬り小松を植えて墓標とした場所である。降神の檣には、東条景信が再び日蓮に刀を振りかざすと、檣が煌めき法華経を守護する鬼子母神が現れ、景信が落馬したという伝説がある。

## ⑲花房山蓮華寺 鴨川市花房 1236

清澄寺での立教開宗により、東条景信に追われた日蓮が逃れた寺。景信の見張りが緩むと、鎌倉遊説に先立って生家を訪ねた。父に妙日、母に妙蓮の法名を授け、自らは蓮長を改め日蓮と名乗ったという伝承もある。文永元(1264)年に父の墓参りと母の病氣見舞のため故郷へ帰るが、工藤吉隆邸へ向かう途中、小松原で襲われ再び蓮華寺に逃れた。見舞いに来た旧師の道善房に法華経を信じるように諫めたという。

## ⑳日蓮聖人御疵洗之井戸 鴨川市花房

蓮華寺への入り口の井戸で、日蓮が法難での傷を洗ったとされる。

## ㉑仁右衛門島 鴨川市太海浜 445

神楽岩は、日蓮が朝陽を拝んで南無妙法蓮華経と唱えた岩とされる。